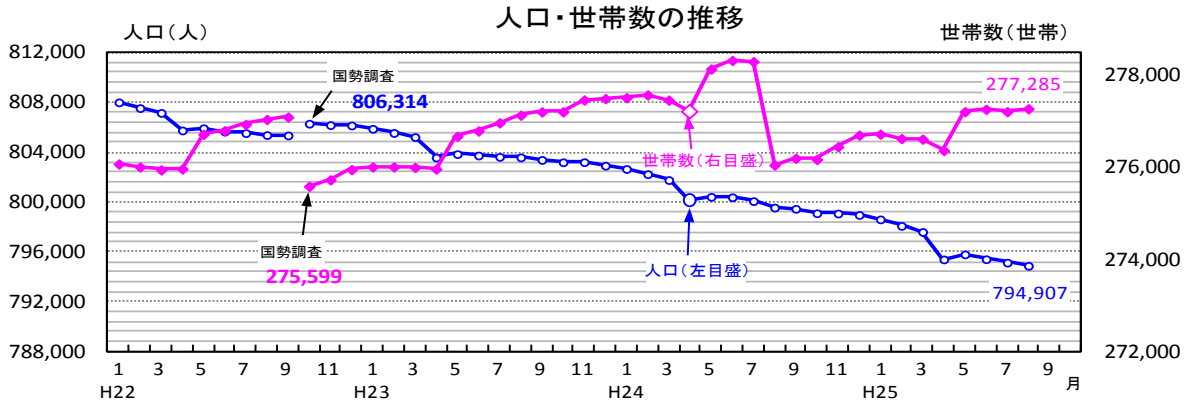


福井県月例統計指標

(平成25年9月)

1. 人口の動き

- 平成25年8月1日現在の福井県の推計人口は794,907人(男384,592人、女410,315人)で、7月中に257人減少した。(内訳:出生574人、死亡691人、転入891人、転出1031人)
- 平成25年8月1日現在の福井県の世帯数は277,285世帯で、7月中に64世帯増加した。

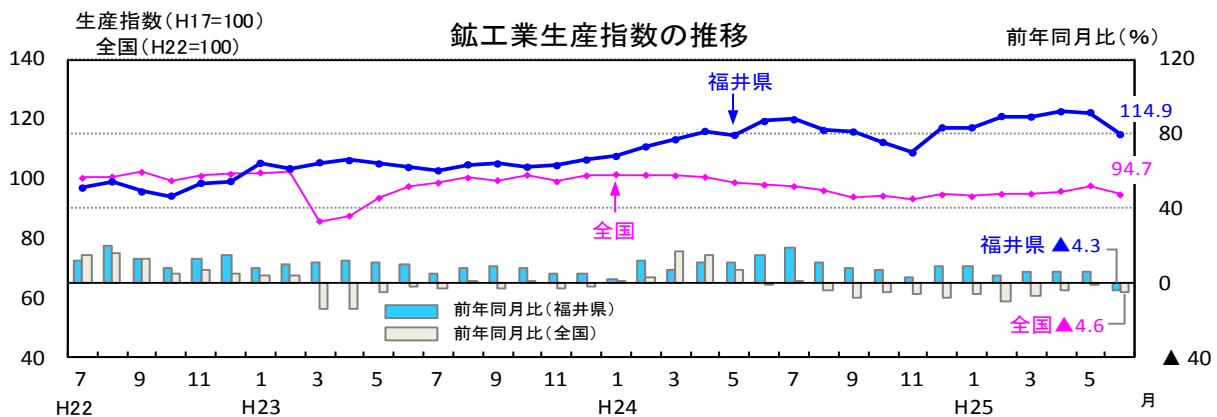


※「平成22年国勢調査(10月1日現在)」(確報値)に基づく推計人口および世帯数。

2. 経済指標の動き

(1) 生産

- 鉱工業生産指数(H17=100)(6月)は114.9(季節調整済)となり、2か月連続で低下した。前月比を業種別にみると、「精密機械工業」「パルプ・紙・紙加工品工業」等3業種で上昇したが、「一般機械工業」「電子部品・デバイス工業」「化学工業」等17業種で低下したため、全体で6.1%の低下となった。また、前年同月比は4.3%低下と43か月ぶりにマイナスとなった。
- 鉱工業出荷指数(同)(6月)は101.1(季節調整済)となり、2か月連続で低下した。
- 鉱工業在庫指数(同)(6月)は166.5(季節調整済)となり、2か月ぶりに上昇した。



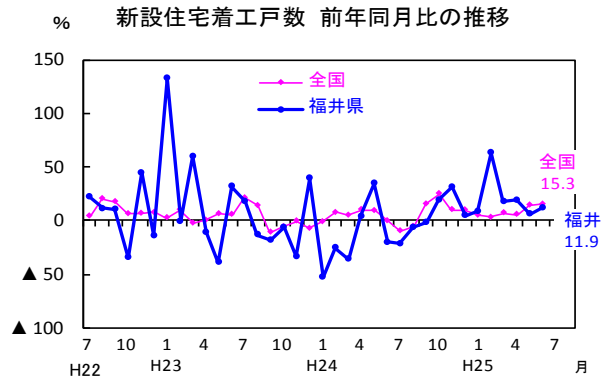
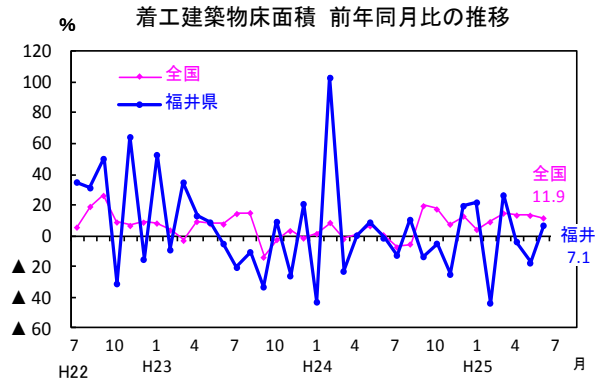
◎業種別動向

業種	業種	鉱工業					機械工業
		製造工業	電子部品・デバイス工業	化学工業	繊維工業	機械工業	
ウ	エ	イ	ト				
季節調整済指数	H25年5月	10,000.0	9,994.3	1,729.8	1,284.1	1,956.6	3,581.1
	H25年6月	122.3	122.3	256.3	147.3	87.4	168.5
	前月比(%)	▲6.1	▲6.0	▲2.4	▲17.9	▲2.9	▲2.7
原指数	H24年6月	122.8	122.8	266.4	146.3	86.1	168.6
	H25年6月	117.5	117.5	263.4	133.4	85.2	164.6
	前年同月比(%)	▲4.3	▲4.3	▲1.1	▲8.8	▲1.0	▲2.4

※機械工業 = 一般機械工業 + 電気機械工業 + 電子部品・デバイス工業 + 輸送機械工業 + 精密機械工業

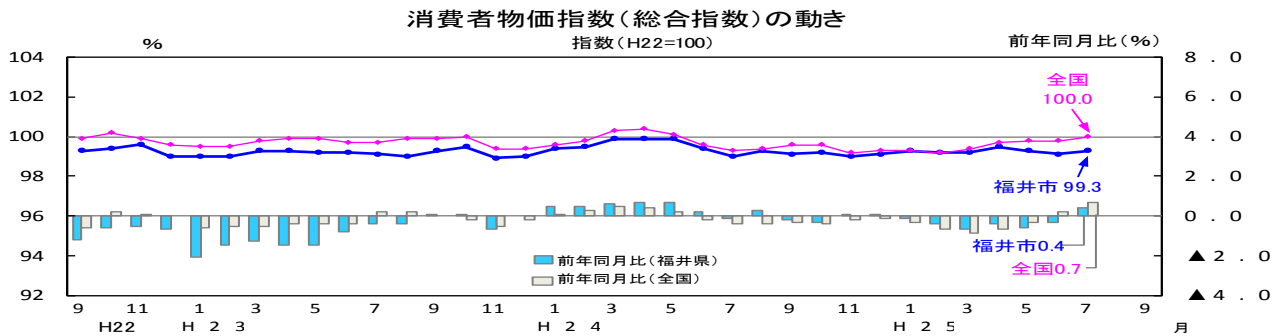
(2) 建設

- ・ 公共工事請負契約額（6月）は177億円となり、前年同月比15.3%増となった。
- ・ 着工建築物床面積（6月）は103.3千㎡となり、前年同月比7.1%増となった。
- ・ 新設住宅着工戸数（6月）は367戸となり、前年同月比11.9%増となった。



(3) 消費

- ・ 消費者物価指数（福井市、H22=100）（7月）の総合指数は99.3となり、前年同月比は0.4%の上昇となり7カ月ぶりにプラスとなった。前年同月比を費目別にみると「光熱・水道」「交通・通信」などが上昇し、「家具・家事用品」「教養娯楽」などが低下した。
- ・ 生鮮食品を除く総合指数は99.0となり、前年同月比は0.1%上昇し、9カ月ぶりにプラスとなった。



10大費目指数の動き (H22=100)

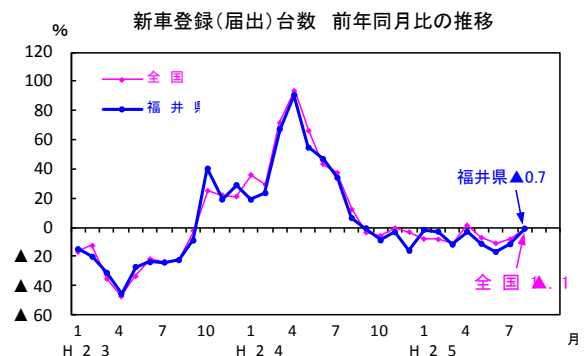
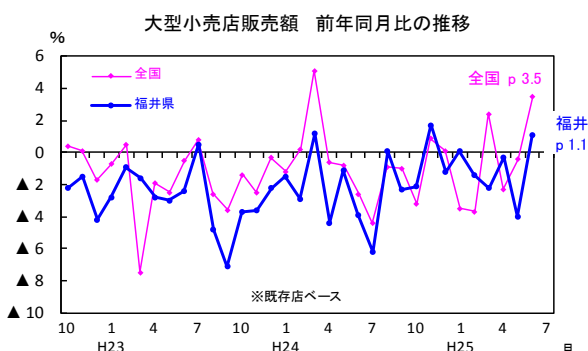
年月	総合	生鮮食品 除く総合	持家の 帰属家賃 除く総合	食料	生 鮮 食 品	住居	光熱・ 水道	家具・ 家事 用品	被服 及び 履物	保健 医療	交通 通信	教育	教養 娯楽	諸雑費
平成25年7月	99.3	99.0	99.7	100.6	108.3	97.4	108.0	89.1	100.0	98.7	104.3	97.5	87.3	105.1
前月比(%)	0.3	0.1	0.3	0.6	4.3	0.0	0.4	▲0.7	▲0.4	0.0	0.8	0.0	▲0.2	0.2
前年同月比(%)	0.4	0.1	0.6	0.7	7.4	▲1.0	2.5	▲4.0	▲0.4	▲0.6	3.1	0.1	▲2.0	0.3

- ・ 大型小売店販売額（6月、速報値）は6,163百万円で、前年同月比は1.1%増（既存店ベース）と5か月ぶりにプラスとなった。

参考：石川県 13,538百万円（前年同月比3.3%増（既存店ベース））、富山県 10,062百万円（同0.5%減）

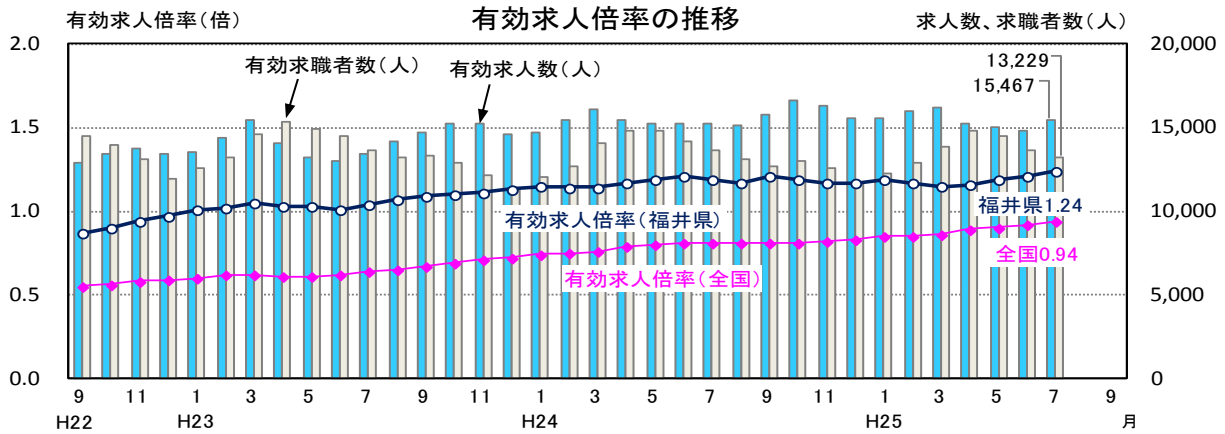
資料：中部経済産業局「管内大型小売店販売概況（平成25年6月速報）」

- ・ 新車登録（届出）台数（8月）は2,834台で、前年同月比は0.7%減と12か月連続でマイナスとなった。
〔内訳 普通車1,508台（前年同月比5.3%減）、軽自動車1,326台（同5.2%増）〕

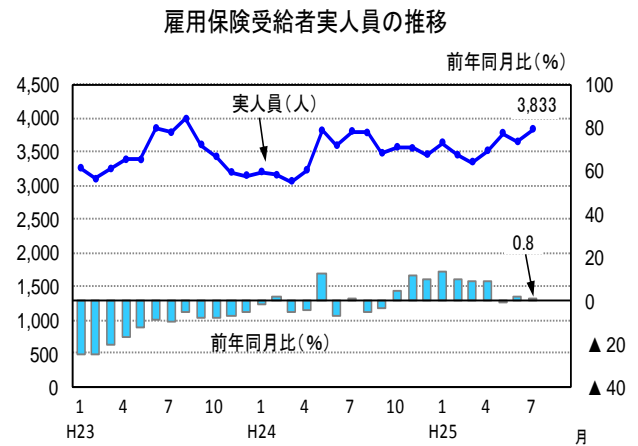
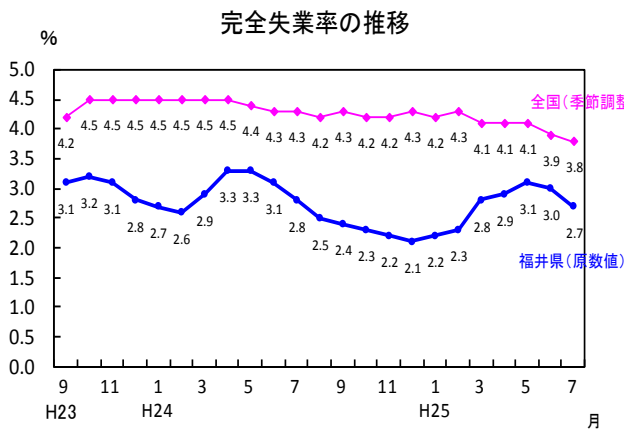


(4) 労働

- 有効求人倍率（季節調整値、パートを含む）（7月）は1.24倍となり、4か月連続で上昇した。一方、全国の有効求人倍率（同）は0.94倍で、5か月連続で上昇した。

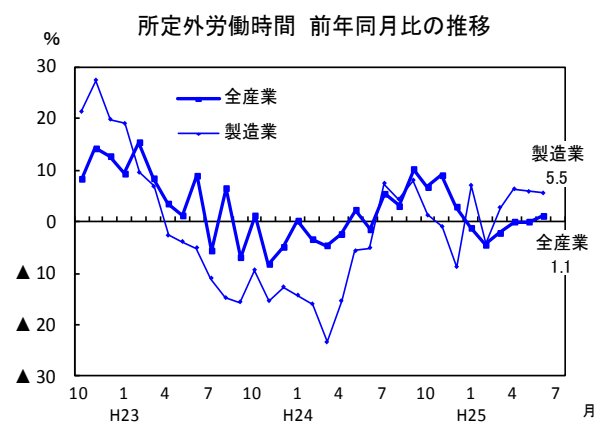
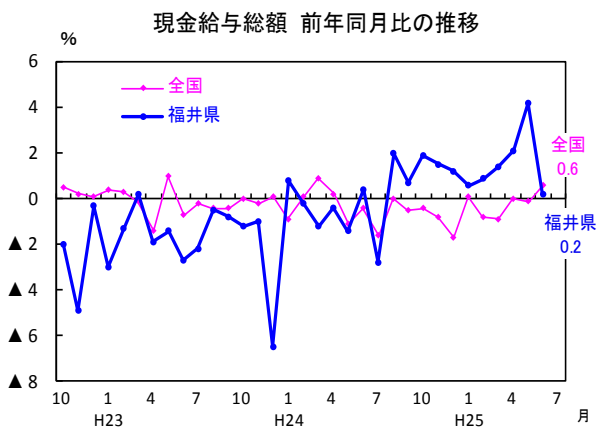


- 県内の完全失業率（7月）は2.7%（原数値）となり、前年同月より0.1ポイント低下した。
- 雇用保険受給者実人員（7月）は3,833人で、2か月ぶりに増加した。一方、前年同月比は0.8%増となり、2か月連続でプラスとなった。



※平成23年3月～8月の全国値は岩手県、宮城県および福島県を除く。

- 現金給与総額（6月）は389,326円で、前年同月比（指数による算出）は0.2%増となり、前月より4.0ポイント低下した。
- 所定外労働時間（6月）は8.7時間で、前年同月比（同）は1.1%増で6か月ぶりに前年を上回った。
- 所定外労働時間（製造業）（6月）は11.6時間で、前年同月比（同）5.5%増と4か月連続で前年を上回った。
- 常用労働者数（6月）は296,203人で、前年同月比（同）は0.1%増で3か月ぶりに前年を上回った。

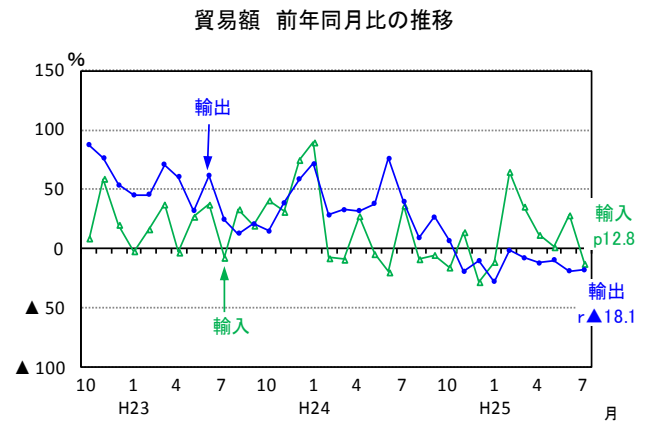
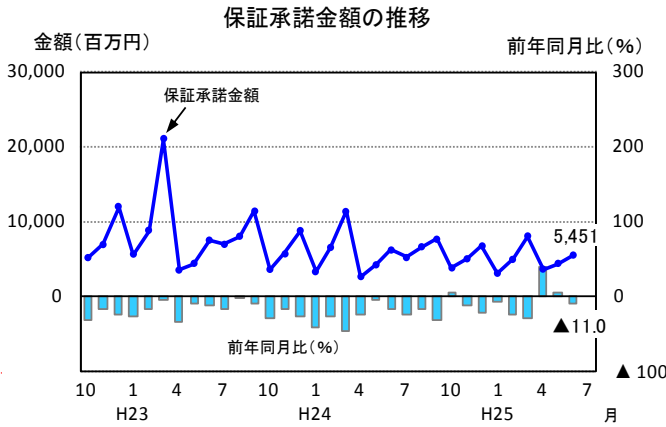


(5) 金融

- ・保証承諾金額（6月）は54億5千万円で、前年同月比11.0%減と3か月ぶりに前年を下回った。
- ・不渡手形金額（7月）は4千9百万円で、前年同月比76.8%減となった。
- ・企業倒産件数（7月）は4件で前月と同数となり、7か月連続で1桁の件数となった。負債総額は2億9千6百万円で前月比2億8百万円減、前年同月比は25億3千万円減となった。

(6) 貿易

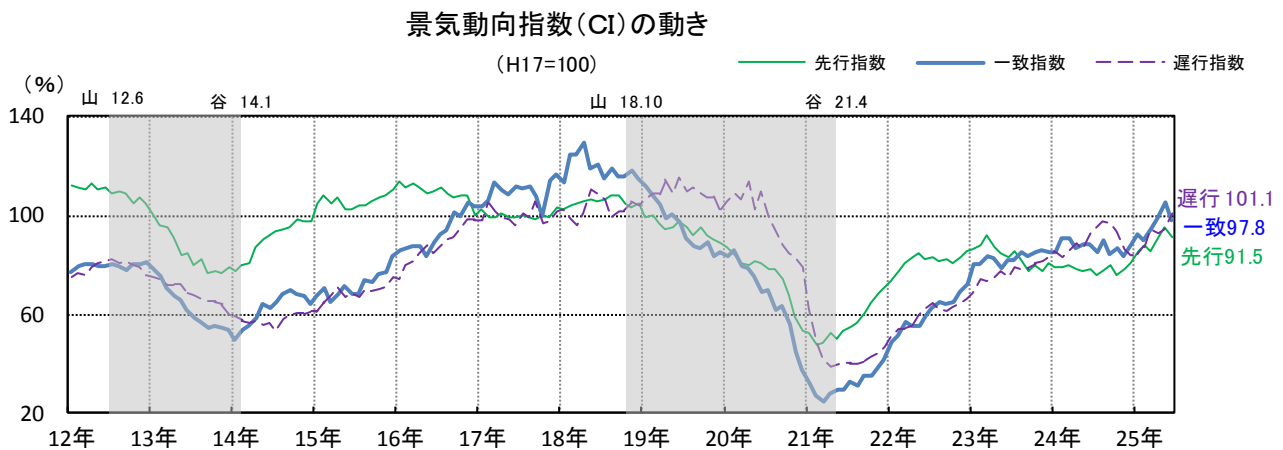
- ・輸出額（7月、確報値）は114億3千7百万円で、前年同月比18.1%減と9か月連続で前年を下回った。
- ・輸入額（7月、速報値）は65億6千万円で、前年同月比12.8%減と6か月ぶりに前年を下回った。
- ・貿易収支（7月、速報値）は48億7千6百万円の貿易黒字で、47か月連続の黒字となった。



(7) 景気動向（福井県の景気動向指数 平成25年6月分）

基調判断：「景気動向指数（CI一致指数）は、改善を示している。」

景気動向指数（CI H17=100）（6月）： 先行指数 91.5（前月差 3.3ポイント減）
一致指数 97.8（前月差 7.1ポイント減）
遅行指数 101.1（前月差 6.5ポイント増）



※シャドー部分は景気後退期を示す。

◇全国の景気動向指数（CI H22=100）平成25年6月分（内閣府経済社会総合研究所、平成25年8月19日改訂）

基調判断：「景気動向指数（CI一致指数）は、上方への局面変化を示している。」

景気動向指数（CI H22=100）（6月）： 先行指数 107.2、一致指数 105.5、遅行指数 110.6

※平成25年5月分速報からCIの基準年を平成22年に変更しました

主要指標 (全国)

<全国> Table showing population, industry indices, and living standards from Heisei 20 to 2024. Columns include population, industry indices (production, exports, in-stock), public works, construction, and living standards (consumer price index, living wage index).

1) 年値は10月1日現在、月の数値は各月1日現在推計人口、※は国勢調査人口、※平成22年国勢調査(速報値)による人口を基準とした推計人口。

2) 年平均は原指数、なお、平成23年1月以降の数値については年間補正済である。

3) 前年同月比および前年比は、平成22年12月以降は平成17年基準、平成23年1月以降は平成22年基準の公表値による。

<全国> Table showing economic indicators such as consumption, sales, and labor. Columns include consumption, sales, and labor statistics, along with their annual and monthly growth rates.

3) 二人以上の世帯のうち勤労者世帯について。 4) 既存店へ入。 5) 軽自動車(その他の台数を除く)を含む。

6) 年度平均は原指数。新規事業を除く、パートを含む。 7) 「」内の数値は岩手県、宮城県および福島県を除く。年度平均は原指数。

8) 事業所規模5人以上について。

<全国> Table showing credit and trade indicators. Columns include credit, trade, and trade indicators, along with their annual and monthly growth rates.

9) 負債額1千万円以上について。

福井県の主要指標 (つづき)

【貿易】					【景気動向】				
年 月	貿易額				景気動向指数 (CI)			日銀短観業況判断	
	輸出	前年比	輸入	前年比	先行指数	一致指数	遅行指数	良い%-悪い%	
年(年度)	百万円	%	百万円	%	H17=100	H17=100	H17=100	製造業	非製造業
平成 17	72,876	24.7	65,770	16.6	-	-	-	-	-
18	69,407	△ 4.8	74,379	13.1	-	-	-	-	-
19	69,425	0.0	82,984	11.6	-	-	-	-	-
20	67,895	△ 2.2	95,953	15.6	-	-	-	-	-
21	51,405	△ 24.3	55,943	△ 41.7	-	-	-	-	-
22	82,758	61.0	59,216	5.9	-	-	-	-	-
23	113,421	37.1	73,857	24.7	-	-	-	-	-
24	140,834	24.2	74,544	0.9	-	-	-	-	-
年月									
21年 1月	3,490	△ 35.5	6,228	△ 9.3	52.6	32.2	62.1		
2	3,259	△ 40.9	4,273	△ 52.8	47.9	27.4	48.3	(3月調査)	
3	3,627	△ 37.9	5,268	△ 25.1	48.8	24.6	42.3	△ 78	△ 47
4	3,953	△ 27.1	4,110	△ 50.5	52.7	27.8	38.5		
5	4,007	△ 28.3	3,974	△ 22.6	50.4	29.8	39.9	(6月調査)	
6	4,501	△ 24.7	5,096	△ 22.9	53.5	29.6	40.8	△ 71	△ 53
7	4,767	△ 31.1	5,331	△ 49.6	55.0	32.5	40.4		
8	4,607	△ 16.7	5,604	△ 41.6	56.5	31.1	40.0	(9月調査)	
9	4,952	△ 16.7	4,456	△ 30.0	60.8	35.4	41.0	△ 54	△ 42
10	5,004	△ 16.5	4,534	△ 63.1	64.8	35.6	43.2		
11	4,490	3.4	3,000	△ 41.4	68.5	38.3	44.8	(12月調査)	
12	4,749	△ 12.1	4,068	△ 54.8	71.0	42.0	47.0	△ 43	△ 46
22年 1月	4,373	25.3	3,923	△ 37.0	73.1	48.8	51.1		
2	5,404	65.8	3,978	△ 6.9	77.8	51.2	53.8	(3月調査)	
3	5,568	53.5	4,580	△ 13.1	80.6	56.9	54.2	△ 34	△ 41
4	5,686	43.8	5,488	33.5	83.4	55.5	55.6		
5	6,590	64.5	4,830	21.5	84.8	55.1	60.1	(6月調査)	
6	5,350	18.9	5,039	△ 1.1	82.1	59.3	62.0	△ 17	△ 27
7	8,045	68.8	5,985	12.3	82.9	63.0	64.3		
8	8,857	92.3	4,459	△ 20.4	81.2	65.0	61.8	(9月調査)	
9	8,314	67.9	6,355	42.6	82.4	64.5	61.1	△ 10	△ 27
10	9,375	87.4	4,926	8.6	81.0	64.7	63.0		
11	7,913	76.2	4,768	58.9	83.1	68.8	65.0	(12月調査)	
12	7,282	53.3	4,886	20.1	85.5	72.1	66.0	△ 22	△ 22
23年 1月	6,341	45.0	3,836	△ 2.2	86.5	80.6	68.4		
2	7,867	45.6	4,627	16.3	87.7	80.7	73.9	(3月調査)	
3	9,513	70.9	6,285	37.2	92.1	83.9	73.7	△ 8	△ 20
4	9,124	60.5	5,307	△ 3.3	86.9	82.6	74.7		
5	8,691	31.9	6,132	26.9	84.7	78.3	77.1	(6月調査)	
6	8,641	61.5	6,910	37.1	83.1	82.0	75.1	△ 10	△ 18
7	10,012	24.5	5,522	△ 7.7	85.6	81.7	79.1		
8	9,994	12.8	5,940	33.2	82.6	85.5	78.2	(9月調査)	
9	10,023	20.6	7,585	19.4	77.8	83.4	78.3	△ 16	△ 5
10	10,733	14.5	6,932	40.7	79.5	85.1	80.5		
11	10,941	38.3	6,247	31.0	77.8	86.1	81.7	(12月調査)	
12	11,541	58.5	8,533	74.7	80.9	84.9	82.8	5	△ 5
24年 1月	10,853	71.2	7,267	89.5	78.9	85.3	85.4		
2	10,076	28.1	4,254	△ 8.1	79.1	90.4	83.2	(3月調査)	
3	12,604	32.5	5,701	△ 9.3	80.0	90.8	85.3	△ 13	△ 17
4	12,024	31.8	6,762	27.4	77.9	86.9	88.4		
5	11,982	37.9	5,852	△ 4.6	77.8	88.2	86.5	(6月調査)	
6	15,186	75.7	5,527	△ 20.0	78.0	88.0	92.8	△ 15	△ 16
7	13,967	39.5	7,520	36.2	75.5	85.3	95.5		
8	10,896	9.0	5,413	△ 8.9	77.5	90.1	97.7	(9月調査)	
9	12,662	26.3	7,183	△ 5.3	79.7	84.0	96.4	△ 13	△ 13
10	11,427	6.5	5,828	△ 15.9	76.1	86.7	93.9		
11	8,813	△ 19.4	7,113	13.9	78.3	83.5	86.5	(12月調査)	
12	10,345	△ 10.4	6,126	△ 28.2	80.6	88.6	84.2	△ 26	△ 15
25年 1月	r 7,835	r △ 27.8	r 6,450	r △ 11.2	85.6	92.6	84.1		
2	r 9,903	r △ 1.7	r 7,005	r 64.7	87.8	89.6	87.5	(3月調査)	
3	r 11,594	r △ 8.0	r 7,718	r 35.4	85.4	94.4	94.1	△ 10	△ 10
4	r 10,533	r △ 12.4	r 7,545	r 11.6	91.1	98.5	92.9		
5	r 10,832	r △ 9.6	r 5,920	r 1.2	94.8	104.9	94.6	(6月調査)	
6	r 12,318	r △ 18.9	r 7,083	r 28.2	91.5	97.8	101.1	10	△ 17
7	r 11,437	r △ 18.1	p 6,560	p △ 12.8					
8									
前月比(%)	r △ 7.2	-	p △ 7.4	-	-	-	-	-	-
前年同月比	r △ 18.1	-	p △ 12.8	-	-	-	-	-	-
資料出所	財務省「貿易統計」 * 敦賀税関支署、敦賀税関支署福井出張所の通関額の合計。内浦港(舞鶴税関支署管内)を除く。 * pは速報値、rは確報値、平成23年以前の数値は確定値。				県政策統計・情報課 「福井県の景気動向指数」 * 平成24年1月分より、C I 中心の公表形態に変更した。			日本銀行金沢支店 * 平成21年12月調査は調査対象企業の見直し後の新ベース	

用語の説明

【生産】

・ 鉱工業指数

鉱工業の生産活動の水準と動向をみる指標で、生産・出荷・在庫を数量面からとらえ指数化したもの。
なお、月別の数値は季節調整済指数である。

・ 織物生産

調査範囲：従業者 10 人以上のものおよび経済産業大臣の指定するもの。

織物生産月報を提出しなければならない 2 以上の工場を有する企業（本社）であって、
原材料または製品を保有するもの。

【消費】

・ 家計（福井市勤労者世帯）

平均消費性向（％）＝消費支出÷可処分所得×100

・ 大型小売店販売額（百貨店およびスーパー）

百貨店およびスーパーとは、従業者 50 人以上の小売商店であって次に該当するもの。

（1）百貨店：日本標準産業分類の百貨店のうち（2）のスーパーに該当しない商店であって、
かつ売場面積が 1,500 m²以上の商店。

（2）スーパー：売り場面積が 1,500 m²以上で、その 50%以上において、セルフサービス方式を採用
している商店。

なお、前年同月比は店舗調整後の値（既存店ベース）。店舗調整とは、調査対象商店の定義変更およ
び移動があった場合、前年同月比を調査対象となった商店のみで算出すること。

・ 新車登録台数：軽自動車を含む自動車の新車販売台数。

【労働】

・ 労働市場月報 数値は一般職業紹介状況で、新規学卒を除きパートを含む。

有効求人倍率（原数値）＝月間有効求人数÷月間有効求職者数

新規求人倍率（原数値）＝新規求人数÷月間新規求職数

就職率（％）＝就職件数÷新規求職申込件数×100

・ 福井県労働状況調査

完全失業率（％）（原数値）＝完全失業者数÷労働力人口（就業者と完全失業者の合計）×100

※「3 か月後方移動平均」（公表対象の月とその前月、前々月の計 3 か月の平均値）を使用。

<参考>総務省「労働力調査」における完全失業率の都道府県別結果（モデル推計値）

労働力調査は都道府県別の推計を前提とした標本抽出を行っておらず標本規模も小さいことなどにより、全国結果
に比べ結果精度を確保できないことから、都道府県別結果については、平成 18 年 5 月より時系列回帰モデルを用いて
統計学的処理した「モデル推計値」として平成 9 年以降の四半期平均および年平均結果が公表されている。詳しくは、
総務省統計局ホームページより「都道府県別結果の新たな統計的手法による推計（時系列回帰モデルによる推計）に
ついて」を参照されたい。

URL：<http://www.stat.go.jp/data/roudou/pref/pdf/02.pdf>

・ 毎月勤労統計調査 数値は常用労働者を常時 30 人以上雇用する第一種事業所のもの。

現金給与総額・総労働時間 … 常用労働者一人平均

【景気動向指数】

景気動向指数は、生産、雇用など様々な経済活動での重要かつ景気に敏感な指標の動きを統合すること
によって、景気の現状把握及び将来予測に資するために作成された統合的な景気指標であり、DI(Diffusion
Index)とCI(Composite Index)がある。

DIは、採用系列のうち、3 か月前と比較して拡張した系列の割合を示す(DI＝拡張系列数／採用系列数
×100(％)) ことにより、景気の広がりを見る指標であるのに対し、CIは各指標の前月比の変化量を合成
することにより、景気のテンポ(量感)を測定する指標である。

(注) r＝改訂値 p＝速報値

前月比・前年同月比は、単位未満を端数処理する前の数値で計算している。

(参考)

全国および北陸の経済概況

○全国 【内閣府「月例経済報告」より抜粋】

今 回 (平成25年8月15日)	前 回 (平成25年7月23日)
<p>景気は、着実に持ち直しており、自律的回復に向けた動きもみられる。輸出は、持ち直しの動きがみられる。生産は、緩やかに増加している。企業収益は、製造業を中心に改善している。設備投資は、おおむね下げ止まっており、一部に持ち直しの動きもみられる。企業の業況判断は、改善している。雇用情勢は、改善している。</p> <p>個人消費は、持ち直している。物価の動向を総合してみると、<u>デフレ状況ではなく</u>なりつつある。</p> <p>先行きについては、輸出が持ち直し、各種政策の効果が発現するなかで、企業収益の改善が家計所得や投資の増加につながり、景気回復へ向かうことが期待される。ただし、海外景気の下振れが、引き続き我が国の景気を下押しするリスクとなっている。</p>	<p>景気は、着実に持ち直しており、自律的回復に向けた動きもみられる。輸出は、持ち直しの動きがみられる。生産は、緩やかに増加している。企業収益は、製造業を中心に改善している。設備投資は、おおむね下げ止まっており、一部に持ち直しの動きもみられる。企業の業況判断は、改善している。雇用情勢は、厳しさが残るものの、改善している。</p> <p>個人消費は、持ち直している。物価の動向を総合してみると、<u>デフレ状況は緩和</u>しつつある。</p> <p>先行きについては、輸出が持ち直し、各種政策の効果が発現するなかで、企業収益の改善が家計所得や投資の増加につながり、景気回復へ向かうことが期待される。ただし、海外景気の下振れが、引き続き我が国の景気を下押しするリスクとなっている。</p>

○北陸 【日本銀行金沢支店「北陸の金融経済月報」より抜粋】

今 回 (平成25年8月9日)	前 回 (平成25年7月3日)
<p>北陸の景気は、<u>着実に持ち直している</u>。</p> <p>最終需要をみると、個人消費は持ち直しの動きがみられる。また、設備投資は底堅く推移しているほか、住宅投資は<u>着実に持ち直して</u>おり、公共投資は増加傾向を維持している。</p> <p>当地製造業の生産は、<u>着実に増加</u>している。業種別にみると、電気機械（含む電子部品・デバイス）が増加しているほか、医薬品を中心とする化学は高水準の生産を維持している。一般機械、金属製品、<u>繊維</u>は持ち直しており、鉄鋼、<u>非鉄金属</u>は横ばい圏内の動きとなっている。雇用・所得は持ち直している。</p> <p>この間、<u>物価は前年並み</u>となっている。</p> <p>先行きについては、<u>国内需要の底堅さと海外経済の持ち直し</u>を背景に、<u>緩やかに回復</u>していくと考えられる。</p> <p>金融面をみると、<u>預金は法人、個人を中心に前年を上回</u>っている。貸出は地方公共団体向けを中心に<u>前年を上回</u>っている。貸出約定平均金利は低下している。</p>	<p>北陸の景気は、持ち直している。</p> <p>最終需要をみると、個人消費は持ち直しの動きがみられる。また、設備投資は底堅く推移しているほか、住宅投資は持ち直しており、公共投資は増加傾向を維持している。</p> <p>当地製造業の生産は、海外経済減速の影響が徐々に後退する中で、全体として増加している。業種別にみると、電気機械（含む電子部品・デバイス）が増加しているほか、医薬品を中心とする化学は高水準の生産を維持している。一般機械や金属製品、非鉄金属は持ち直しの動きがみられる。鉄鋼、繊維は横ばい圏内の動きとなっている。</p> <p>この間、雇用・所得は持ち直しつつある。</p> <p>先行きについては、金融緩和や各種経済対策の効果もあって国内需要が持ち直していくとみられるほか、海外経済の成長率が緩やかながらも次第に高まっていくことなどを背景に、緩やかな回復経路に復していくとみられる。</p> <p>金融面をみると、預金は個人を中心に増加している。貸出は地方公共団体向けを中心に増加している。</p>